

引導下炬

其れ仏心とは大慈悲是なり。無縁の慈悲を以て諸々の衆生を摄し給うと。

導師作法

三折歸元  
卷之二  
增補成名卷  
序二三  
三  
十  
。

憶うに人の身を受けて生きる群萌、その数はかり難い中に一念を起こして人の世を貫き通す者は洵に稀であります。素よりこれはその生きる信念の浅深によることは申すまでもありませんが、またその人の受けてきた良き因縁のしからしめるところであります。

今静かに思ひおこせば、靈位は、兵庫県○○市に生とうけ、身体壯健、その性格は質実剛健、而して意氣に感じて純情を燃やし、その人生を一生懸命に生き働きつづけてこられました。大学卒業後は、○○新聞、また○○新聞の記者としてご精励され、新聞記者退職後も、その文才を遺憾なく發揮されてきたことと聞き及ぶところです。また、縁あつて○○○○の地に居を構え、2人の子、1人の孫にも恵まれました。  
あさな  
なわ  
ひきこもごも  
うつしよ

されど人生の苦樂は、糾える繩のごとく悲喜交々の現世で、一度は家族が疎遠になることもありますたが、貴方を突然襲つた病魔と機縁に再び家族が寄り添うに至りました。その家族に支えられ、懸命な治療を続けるもその効果及ばず、終には齡まさに天寿を尽くし、享年八十〇歳を生き終え、今日静かに、淨土への旅立ちを相成りました。

此のなまみの身体を持つかぎり、病むことは、そして命終る日を迎ねば  
ならぬということは、だれひとりとして逃れる事の出来ない哀しい定めでありま  
す。

既にして、その身の上に起<sup>おこ</sup>つて來たことは、そして、どうしても逃れる事の出来ないものは、そのままに、正しく受けて行くより道はありません。鬱病の日々をささえ世話をしてくれた家族親族、その人たちの、深い愛情に感謝して、その世話を受けることが出来たことを此の世の幸せとして、どうぞ安らかに如來のみ国にお帰えりください。本日葬送の儀に臨み、家族、親族、共に集い、共に合掌して阿弥陀如來のみ名を称してここに貴方をお送りいたします。どうかお淨土に在りて、先に旅立つた家族とともに、後に残りしご家族を見護りつつ、ほえみの中に生き給わんことを念じ上げます。

無常の中にあるて無常を超える道、哀しみの中にあるてその哀しみを超えてゆく道、凡夫なる私どもにとつて、それは専称南無の一<sup>せんしようなむ</sup>行<sup>いちぎょう</sup>あるのみでございます。

新帰元、〇〇〇〇〇〇〇〇居士、靈位、今、多生廣劫を経ても生まれ難き人界に生まれ、無量億劫にも遇い難き仏教に逢えり。この度、生死を離るる道、淨土に生まる。彼の國に生まるること、ただ弥陀の本願に乘り、生死の海を渡り、極樂の岸に着くべきなり。

阿弥陀仏、かねて末代の衆生を憐み、無上殊勝の大願と起こし、易修易行の念仏をもつて直ちに往生を得せしめ給う。これを念仏往生の本願と言う。すなわち無量寿經に曰く、もし我れ仏を得たらんに十方の衆生、至心に信樂して我が國に生ぜんと欲して乃至十念せんに、若し生ぜずば正覺を取らじと。

まさに知るべし、本誓の重願空しからず、衆生称念すれば必ず往生することを得。

今當に靈が往詣樂邦の首途に臨んで一句餞別せん。

諦かに聽け、諦かに聽いてよく之を思念せよ。

釈迦はこの方より發遣し、弥陀は彼の國より來迎し給う。かしこに喚びここに遣る。あに行かざるべけんや。松明放下

莫謂西方遠、唯須十念心（十念）

### 後段訳

今、私たちは非常に長い間（多生廣劫）輪廻を繰り返してもなかなか生まれることのできない人間としてこの世に生まれ、また数限りないほど長い時（無量億劫）を経ても巡り会うことのできない仏教の教えに出会うことができました。

この度、迷いの世界（生死）を離れる道、すなわち淨土に生まれるのです。かの極樂淨土に生まれることは、ただ阿弥陀仏の立てられた本願に身をゆだね、海のよう広い迷いの世界を渡り、極樂の岸にたどり着くのです。

阿弥陀仏は、あらかじめ、お釈迦様がなくなつて相当の期間が経過した時代の私たちのような者たちを深く憐れみ、この上なく優れて特別な誓い（無上殊勝の大願）をたてられました。そして、修めやすく行いやすい念仏によつて、直ちに淨土に往生できるようにしてくださりました。これを「念仏往生の本願」といいます。

すなわち、『無量寿經』には、次のように説かれています。「もし私が仏になつ

た時に、あらゆる世界の人々が、心から（至心に）私を信じ慕い（信楽して）、私の國に生まれたいと願い、わずか十回でも念佛を称えるのに、もし彼らが往生できないようであれば、私は決して仏の悟りを開かない（正覺を取らない）」と。そして今、阿弥陀様のこの重い願いは実現し、私たちが念佛を称えれば、必ず淨土に生まれることができるのです。

今まさに、安らかな淨土（樂邦）へ旅立つ門出にあたり、最後に一句を贈ります。よく聞いてください。よく聞いて、この教えを心に深く念じてください。

お釈迦様は、この世（娑婆）から「行きなさい（發遣）」と送り出してくださり、阿弥陀様は、あの極樂淨土から「迎え入れよう（來迎）」としてくださいます。あちらから呼び、こちらから送り出すのです。あなたは必ず往くのです。

莫謂西方遠 唯須十念心（西方（極樂淨土）は遠いなどと言うなけれ。ただ十念の心（念佛を称える心）をもらひればよいのです。）

淨土宗西山深草派 高城山 帰命院 十念寺 沙門 賢空

参考文献 .. 四季社 淨土宗下炬事例別集成